2018年度
都道府県
ユース育成マネージャー会議資料

2019/1

JBAユース育成

JBA
JAPAN BASKETBALL ASSOCIATION

2018年度ユース育成マネージャー会議の目的

1．育成センターの目的を再認識

2．ユース育成担当者の役割

3．ユース育成組織の連絡系統

4．都道府県育成センターの円滑運営のために

5．2019年度からの発掘方法論変更（ブロックDCの廃止により）

6．ブロック協会との連携

7．連絡事項（3月育成センター伝達講習会、コーチ講習会）

8．各県からの要望事項等

１．「なぜ育成が重要か」

育成センターの目的

育成センターの目的

■目的
・個の育成　「選手作り」
・成長スピードを速める
・勝利至上の戦術指導ではなく，習熟度別、段階別を考慮した指導を行う
・指導者は育成世代の指導内容への理解を深める
・育成世代コーチングを実践する
・タレントスカウティングの力を向上させる

■タレントスカウティング（選手発掘）
・今回のU13･U18ブロックDCでの方法論伝達＝都道府県育成センターで活用
フィジカルテスト（スプリント・ジャンプ力等バスケットボール特性）
バスケットボールスキルテスト（シューティング、パッシング、ドリブル、フットワーク等）
バスケットボールIQ（戦術を指導し，表現力・理解力を見る）
メンタル特性（リーダーシップ、積極性、闘争心、ディフェンスへの意識等）

育成が担うもの

1．発掘

2．育成

3．指導者教育

4．大会整備

5．リーグ戦準備

ユース育成組織：
都道府県育成センター

アンダーカテゴリー部会：
都道府県リーグ戦準備
都道府県協会主催大会準備

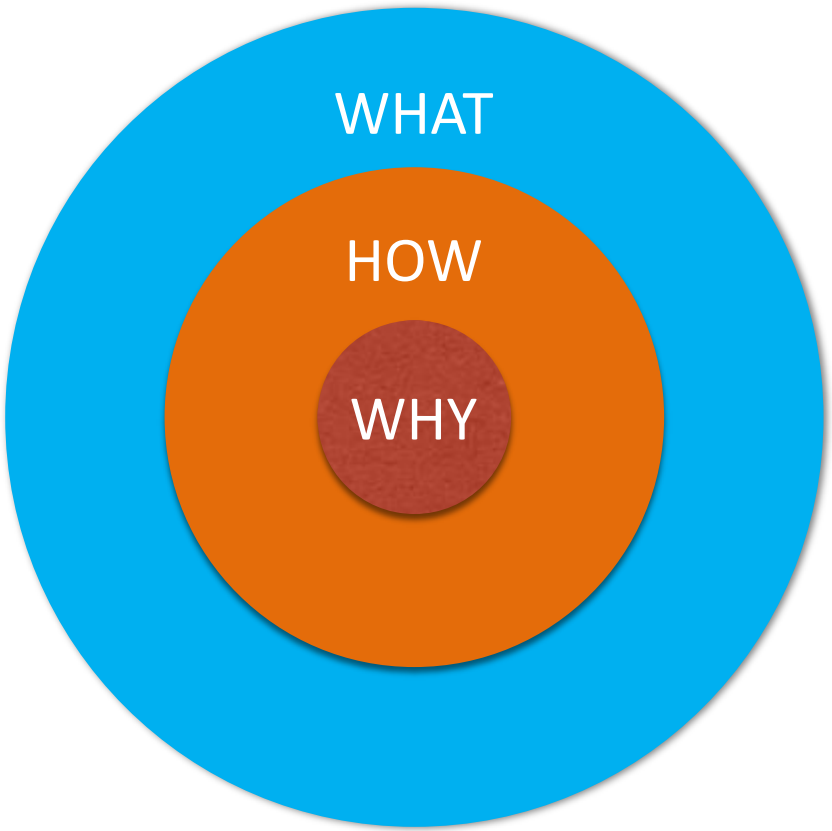
育成の本質

1．バスケットボールで日本を元気にする

2．将来の日本のバスケットボールを作っている

3．バスケットボールを行う子供達の幸せを作っている

WHY-HOW-WHAT



WHAT＝「何を」
育成センター、リーグ戦を

HOW＝「どのように」
経費処理、構成方法、スケジュールetc.

WHY＝「なぜ」
大義、目的、意義、やりがい・・・

「大義」が根本にあることが重要

「大義」を訴え続ける人が必要

①　WHY-大義

伝えた大義

日本のバスケットボールを良くすれば
日本は良くなる

育成環境を変えれば
日本のバスケットボールは強くなり
さらに普及が進む

皆でバスケットボールを
良くしようではないか

女子は世界でメダル！
男子も世界に通じる時が来る！

バスケットボールで日本を元気にします！

「夢＝大義」を皆で共有すること

「夢＝大義」がモチベーションになる
「何をやるか」よりも
「なぜやるか」で自分事になる

他人事ではなく
自分事になってもらう事が必要

② HOW – 育成を進めるために

石工の話

ある建築現場に二人の石工がいた。
「仕事は好きですか？」と尋ねた。

一人の石工は「俺は物心ついた頃からこの壁を作っている。仕事は単調だ。一日中じりじりと照りつける陽射しの下で働いている。石は重いし毎日運ぶのに骨が折れる。俺が生きている間にこのプロジェクトが終わるかどうかも分からない。だがこれは仕事だ。賃金をもらっている。」

もう一人の石工にも同じ質問を尋ねた。
もう一人の石工は「大好きだよ。大聖堂を建ててるんだぜ。物心ついた時からずっとこの壁を作ってるよ。そりゃ仕事は単調になりがちだ。一日中じりじりと陽射しが照りつけるし、重い石を一日中運んでいるんだからそりゃ大変さ。俺が生きている間にこのプロジェクトが終わるのかどうかも定かじゃない。でもね、俺は大聖堂を建てているんだよ。」

私たちが目指すもの～強化・普及

世界へのチャレンジ　　世界を驚かせる！　　メダル獲得！

国内で活気あるバスケットボール　普及

バスケットボール愛好者を増やす
バスケットボールを楽しめる！上手になる!
日本代表が強い！応援する！

③　WHAT　- これまでの育成事業（エンデバー事業）の検証

育成においては以下の4つの機能が必要

発掘　育成　指導者教育　普及

2002年よりエンデバー事業設置
　U12/U13/U18ブロックエンデバー
　U14/U15/U18トップエンデバー
2016年よりナショナル育成キャンプ設置
　U18は強化代表へ移行、U12/U13/U14/U15
　（U12は2018より休止）

発掘の問題点

人数多：力のない選手も選出されている（普及との混在）＝経費大
推薦枠：力のある選手の取りこぼし＋力のない選手の選出
時間少：1泊2日で伝達と発掘の両方を行うのは難しい
方法論：中学世代男子では早熟発掘が多く将来に繋がりにくい

育成の問題点

継続性：継続的な刺激が必要だがブロックエンデバーは年1回の事業
実施度：都道府県育成はJrオールスター、国体強化。県による温度差。
目的異：Jrオールスター・国体準備で行うとチーム強化が強調される傾向

指導者教育（伝達）の問題点

時間少：年1回のブロックエンデバーで伝えられることは限定的（約4時間）
指針要：育成年代に何が必要かの指針が全体像として不足
周知法：指導内容資料が関係者で止まりがちで多くの指導者に届きにくい

普及の問題点

県から選抜されることのステイタスのプラス・マイナス
バスケット界へ選手を取り込むことに貢献できているか？

WHAT - 解決策提案の前提条件

資源（資金・人）は限りがある
限りある資源を効果のあるところに集中的に投下して成果を上げなければならない

育成における成果とは？

1．選手が将来大きく成長するための土台を作ること
2．選手がバスケットボールをすることを楽しいと思えること
3．将来の代表が世界基準で戦えるようになること
4．日本のバスケットボール界が活性化していること
5．バスケットボールに関わる方々が幸せに元気でいられること
6．多くの選手がバスケットボールを行う様になること

成果を上げるための事業を実行することを前提に提案

WHAT - 育成センターの将来像

2018年度よりエンデバー事業を「育成センター(Development Center)事業」と名称変更する
都道府県育成センターが育成活動の中心となる
各年代の将来有望選手候補育成をナショナル育成センターにて実施する
2019年度以降、経費を都道府県DC（D-fund）、ナショナルDCにより多く充当する（ブロックDCをなくす）

発掘方法論

複数回の都道府県育成センター活動により、数回のトライアウトを経てより有望な選手の発掘
都道府県内の有望選手の情報収集をより密に行う
早熟発掘と晩熟発掘を理解し、男女の差異に留意しながら選手を選出するこれまでと異なる方法論
県推薦枠は廃止、力のある基準を満たす選手を発掘しナショナル育成センタートライアウトに推薦
都道府県DC→ナショナルDCトライアウト→ナショナルDC（ブロックDCの廃止）
都道府県格差を埋めるために発掘担当の人材を任命

育成方法論

目標年10回、月1回の複数回実施により、選手に刺激を与え、意識を持たせる
チーム作りではなく、選手作りを目標とする育成コーチングの周知徹底
オールラウンダー育成＋特化した能力のより向上を目指すコーチング

指導者教育（伝達）方法論

「どのように指導すべきか」を理解してもらうための育成コーチング資料準備
「何を指導すべきか」育成世代に必要な指導内容を理解してもらうための習熟度別資料準備
都道府県育成センター活動を通じて指導者間で何が必要となるのかを検討する機会を持つ

普及方法論

他県交流戦を各都道府県裁量で実施して頂くことを推奨
地区育成センターの実施によってより多くの候補選手に目指すものを伝えていく

WHAT - 各年代における育成センター事業

育成センター	U12/U11		U14/U13		U16/U15	
	2018	2019-	2018	2019-	2018	2019-
都道府県	○	◎U12	○	◎U14	○	◎U16
ブロック	◎	◎U12	◎U13	×	◎U16/U17	×
ナショナル	×	×	◎U13/U14	◎U14 △U13	×U16代表	◎U15

◎：重点実施　○：推奨　△：検討中　×：実施せず

ブロック事業を休止することについて

1. 発掘機能を再検証した結果、ナショナルに繋がる選手はもっとシビアに選考しなければならない。都道府県育成センターにてナショナルに推薦できる選手基準にて厳格に判定し、ブロック育成センターを実施しなくとも選考する方法論とする。
2. ブロック育成センターの経費を都道府県育成センター（D-fundにて47都道府県に補助）、及びナショナル育成センターに充てる。
3. ブロック育成センター（旧ブロックエンデバー）が担っていた「伝達」の役割は直接都道府県育成センターにて行う。「ブロック間交流」の役割は各都道府県育成センターの延長として、都道府県裁量により別途機会を設けて補っていただくこともできる。
4. U12はナショナル育成センターに選抜するには身長が未発達の時期であり、代表候補確定が難しいことから、都道府県発掘にて有望選手をリストアップし、U13・U14都道府県育成へ情報を伝達することを目標とする。

④　育成センターの将来像

一気通貫

都道府県育成センター

発掘・育成・指導者教育を都道府県の裁量にて活性化させていく。
JBAは指導内容・指導者教育・発掘方法論・育成方法論などに関する情報提供を積極的に行って支援する。
他県との交流（ブロック内交流戦実施等）を都道府県育成センターの一環（延長）として位置づける。

ナショナル育成センター

U13/U14/U15ナショナル育成センターはトップ選手の目標
U14以上での海外交流を検討
U16・U18・A代表への選出確率を高める（経験値を代表に活かす）

ブロック育成センター

U12のみ実施
指導者教育・都道府県における指導者教育活性化のために
選手の目標の場として

バスケットボール界が
偉大な組織に成長するために

都道府県の
果たすべき役割は大きい

※　偉大な組織への変革

■ストックデールの逆説
・現実から決して目をそらすことなく，厳しい現実を現実として受け止める
・最後には必ず勝つとの確信を持ち続け、厳しい現実はあっても，力を持つようになる目標を追求する

■大切にすべきハリネズミの概念（※ハリネズミ＝突き詰めた単純化）
＝育成世代コーチングフィロソフィ「将来を見据えた考え方」「プレイヤーズファースト」
・個を育成する　「選手作り」
・16歳までに個人基礎・プレー基礎を理解させる　「習熟度別指導内容」
・世界基準で教える　「細部へのこだわり」「強度」「ファンダメンタルの徹底」
・チームスポーツとしてのチーム精神を理解させる
・LTADの考え方
・人格形成を重要視する　「フェアプレー」「自立」「強調」「感謝」
・判断の習慣

■弾み車の回転
・準備段階から突破段階へ移行するパターン
・巨大で重い弾み車を回転させるのに似て，当初はわずかに前進させるだけでも並大抵ではない努力が必要だが，長期に渡り一貫性を持たせて一つの方向に押し続けていれば弾み車に勢いがつくように、やがて突破段階に入る

※　偉大な組織への変革　（ビジョナリーカンパニー②飛躍の法則 p.292）

■良い組織が偉大な組織となるために

1．全ては第五水準の指導者から始まる　＝都道府県部会長の皆さんにお願いしたい
考え抜かれた静かな過程によって弾み車を押し続け、誰の目にも明らかな「実績」を生み出すことに関心がある

2．適切な人達をバスに乗せる　＝誰を役職につけて，誰に手伝ってもらうか
不適切な人達をバスから降ろし、適切な人達が適切な座席に座るようにする

3．ストックデールの逆説　＝必ずぶつかる困難にどう対応するか，どう考えるか
正しい方向に押し続けていれば，いずれ突破段階に入る
現実を直視すれば弾み車を回転させるために取るべき手段を理解できる
最後には必ず勝てるという確信があれば，何ヶ月はおろか何年にもかかる準備段階を切り抜けられる

4．ハリネズミの概念の3つの円　＝育成世代に大切なことは何か？
深く理解するようになり、理解に基づく方向に弾み車を押し続けていれば，やがて勢いがついて突破段階に入り、促進剤によって勢いを加速できる。
促進剤とは，関連する技術の応用。

5．正しい決定を積み重ねていく規律　＝育成世代に大切なことを守りつつ，決定していく
ハリネズミの概念に基づく正しい決定を行う
規律ある行動が不可欠
規律ある人材による規律ある考えが不可欠

（ビジョナリーカンパニー②飛躍の法則 p.292より）

２．ユース育成担当者の役割

① ユース育成担当者の役割

1．「バスケットボールで日本を元気にする」理念に基づく活動を行う

・都道府県を元気にする。
・プレーヤー，保護者，関係者の幸せ、笑顔を作る。
・バスケットボールで人格形成（人間力形成）に寄与する。

2．都道府県育成センター事業

・目的：強化（発掘・育成）、指導者教育、普及、**一気通貫**
・将来を見据えた指導
・暴力・暴言・パワハラの根絶

3．U12ブロック育成センター事業

・目的：指導者教育、都道府県育成センターを経てプレーヤーの目標
・日程、会場の決定の管理
・県協会・ブロック協会への連絡
・運営スタッフの確保

① ユース育成担当者の役割

4．リーグ戦事業との連携

・アンダーカテゴリー部会との連絡を図る

5．JBAからの伝達事項の周知

・育成に関する情報を都道府県内にて周知
・都道府県内周知方法論は都道府県の実情にてお願いしたい

6．都道府県育成状況の返信

・育成状況調査等、作成して都道府県内で共有、JBAに返信する

② それぞれの役割

■都道府県カテゴリー別ユース育成コーチ

1. 都道府県育成センターでの技術指導の中心的役割
2. 都道府県内選手発掘の責任者
3. 都道府県における選手発掘の体制構築、JBA指導方針の推進
4. ブロック育成センター事業における指導補助

■ブロックカテゴリー別ユース育成コーチ

1. ブロック育成センターでの技術指導の中心的役割
2. ブロック内選手発掘の責任者
3. ブロックにおける選手発掘の体制構築、JBA指導方針の推進
4. ナショナル育成センターにおける指導補助（生活指導を含む）
5. 代表選手選考に関しての助言

② それぞれの役割

□都道府県ユース育成マネージャー

1. 都道府県内ユース育成事業の総括
2. ブロックユース育成マネージャー，ブロックカテゴリー別ユース育成マネージャー、都道府県協会、都道府県アンダーカテゴリー部会との窓口

□都道府県カテゴリー別ユース育成マネージャー

1. 担当カテゴリーの都道府県育成センター事業運営
2. 都道府県ユース育成マネージャー、ブロックカテゴリー別ユース育成マネージャーとの窓口

□ブロックユース育成マネージャー

1. ブロック内ユース育成事業の統括
2. JBA，ブロックカテゴリー別ユース育成マネージャー、都道府県ユース育成コーチ・マネージャーとの連携
3. ブロック内都道府県育成センター事業の推進

□ブロックカテゴリー別ユース育成マネージャー

1. 担当カテゴリーのブロック育成センター事業運営
2. ブロックユース育成マネージャーとの連携

③　U16ユース育成担当者・アンダーカテゴリー代表強化との関係

1．U16はアンダーカテゴリー代表強化と関わる世代

2．U16ブロックユース育成コーチはアンダーカテゴリー強化部会にも出席し、
「ユース育成コーチ連絡会」としてアンダーカテゴリー強化の役割を果たしている

3．代表選手選考において「U16ブロックユース育成コーチ」に協力いただいている。

4．アンダーカテゴリー代表選手の発掘・選考情報についてはブロックユース育成コーチに窓口となってもらい、JBAアンダーカテゴリー代表強化担当との連絡を行ってきている。誤解が生じてはいけないため，連絡系統を絞って情報の拡散を制限している。

5．決定後、ユース育成組織にも情報を展開することとしている。

6．U16となっているが育成センターとの関係性を保つための表記。

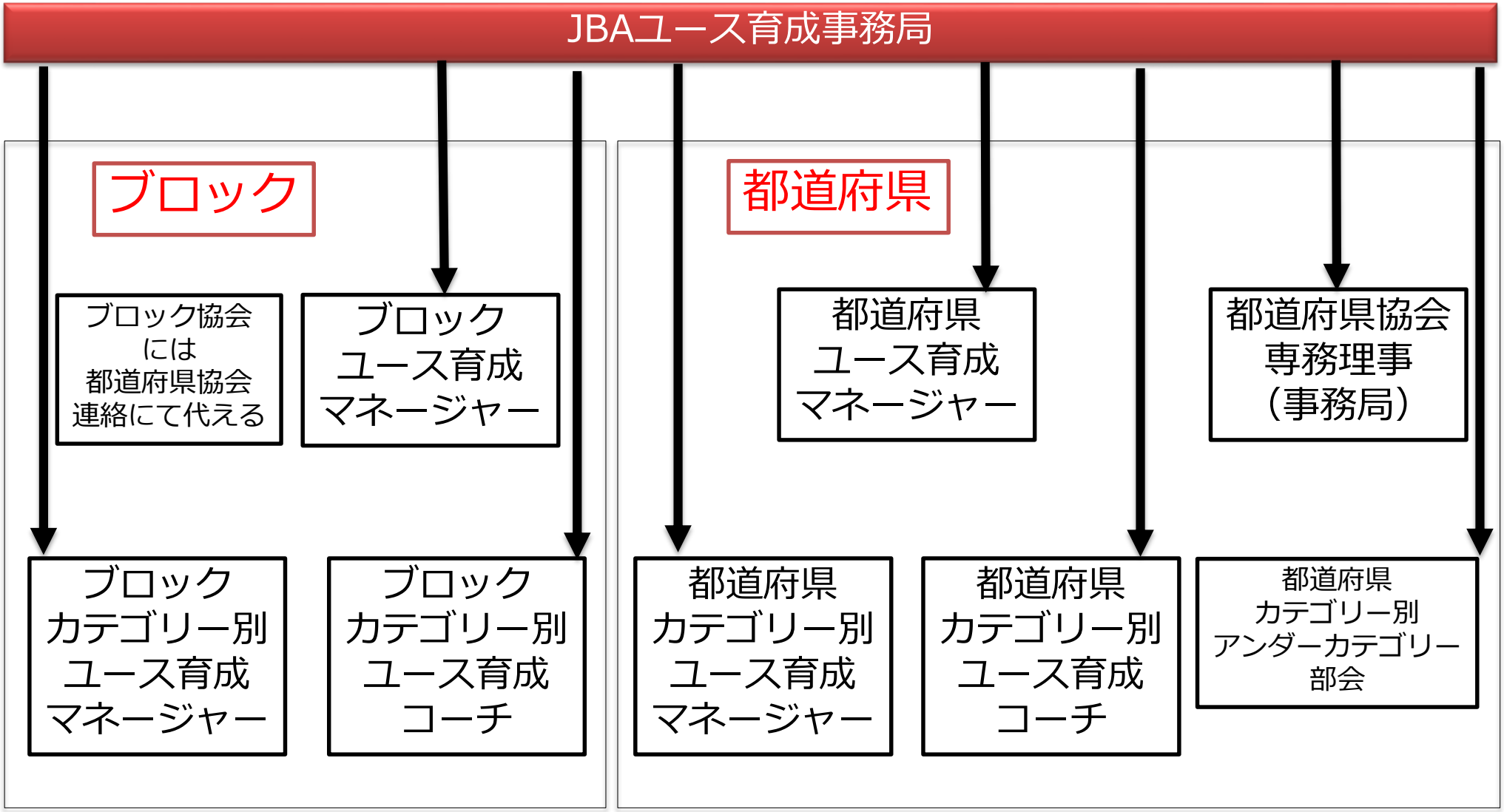
7．U16都道府県ユース育成コーチは都道府県内で高校世代（U18)の選手発掘についての情報を収集する役割を持って頂きたい。

３．ユース育成組織の連絡系統

① JBAから情報を展開する場合

情報展開

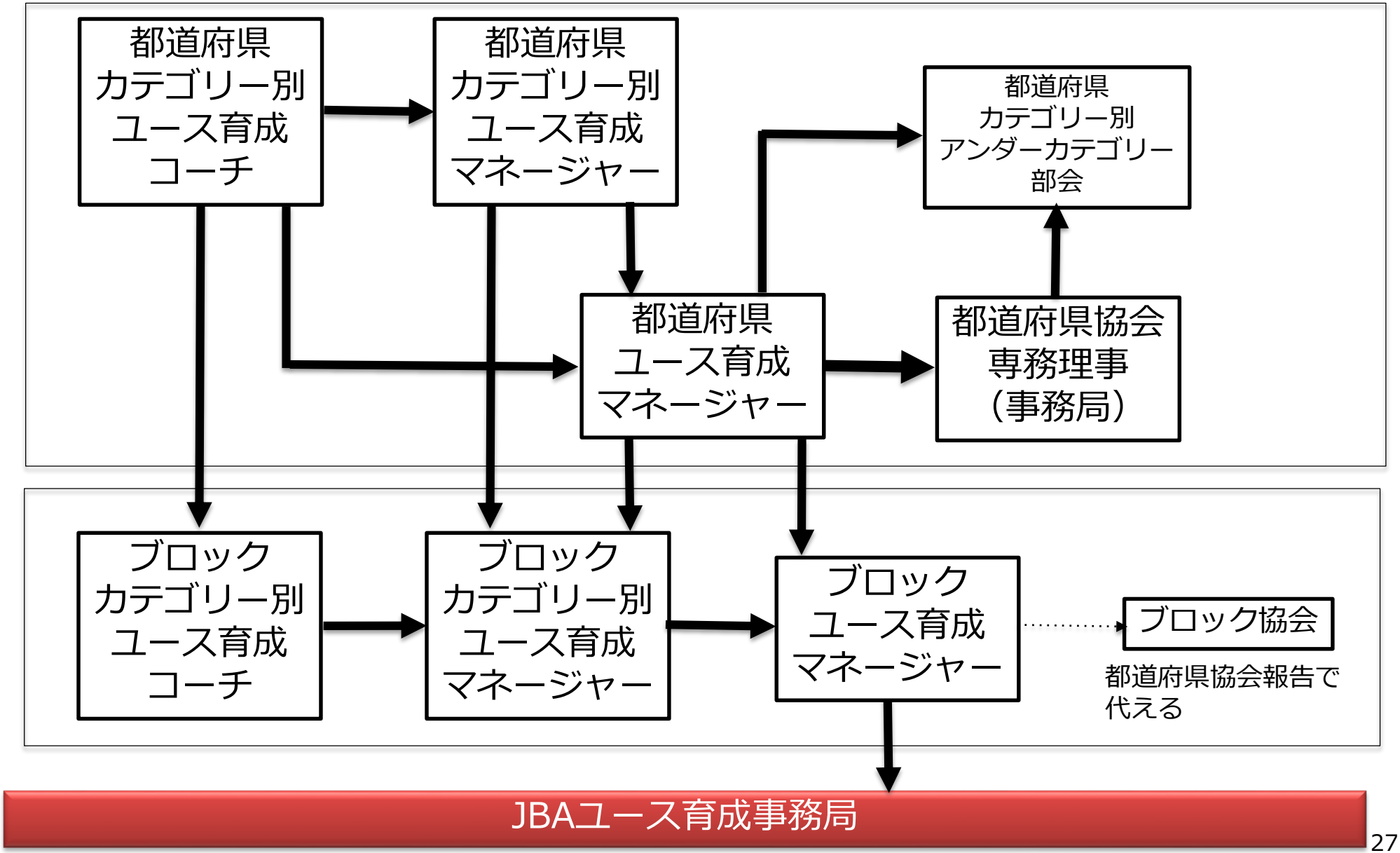
メールにて一斉送信できる：人為的ミスによる連絡漏れをなくすため



② ブロック単位でJBAに返信する場合（例：選手選考）

返信

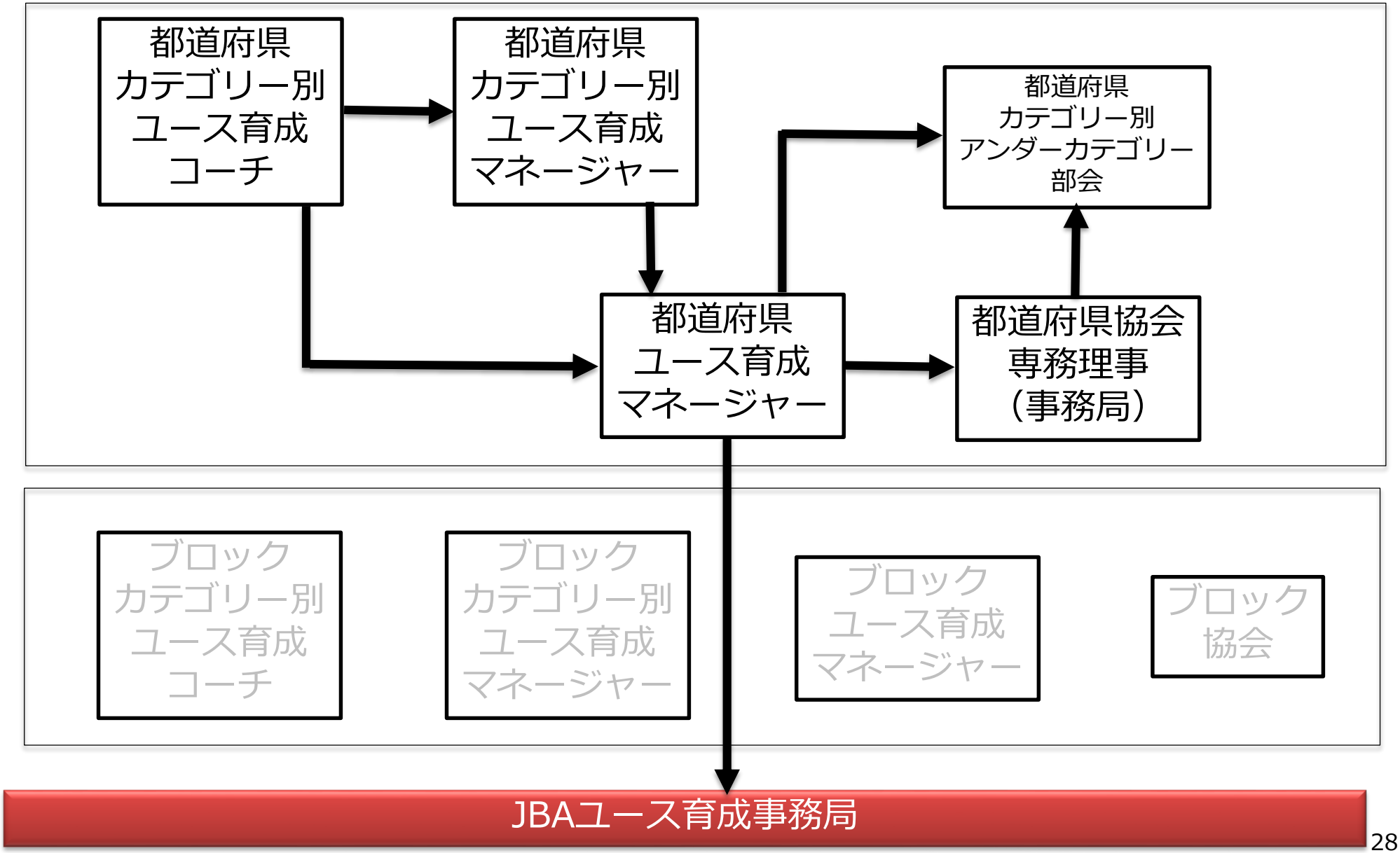
取りまとめて頂き、JBAに返信をお願いしている



③　連絡系統：都道府県事業をJBAに返信する場合（例：育成センター事業）

返信

取りまとめて頂き、JBAに返信をお願いしている



（参考）JBAアンダーカテゴリー部会から情報を展開・返信する場合

情報展開

JBAアンダーカテゴリー部会

↓

都道府県協会事務局

都道府県カテゴリー別アンダーカテゴリー部会長

返信

都道府県カテゴリー別アンダーカテゴリー部会長

↓

都道府県アンダーカテゴリー部会長

↓

都道府県協会事務局

↓

JBAアンダーカテゴリー部会

（参考）JBAマンツーマン推進から情報を展開・返信する場合

情報展開

JBAマンツーマン推進（松澤・佐藤）

↓

都道府県協会事務局　都道府県マンツーマンディレクター

返信

都道府県マンツーマンディレクター

↓

都道府県協会事務局　JBAマンツーマン推進（松澤・佐藤）

４．都道府県育成センターの円滑運営のために

都道府県育成センターの円滑運営のために

１．実施要項の作成，報告
・育成センターガイドラインを参考に
・２月末までに次年度実施要項をJBAに提出
・４月末までに前年度実施内容をJBAに提出

２．発掘
・選手選考の視点（タレントスカウティング）
・選考会議体の透明化、公平性の確保
・部活、Bクラブ、クラブからの選手発掘

３．育成
・「選手を作る」
・習熟度別指導内容、育成センター指導内容
・将来を見据えた指導（育成世代のコーチング）

４．指導者教育
・育成世代コーチングの考え方を周知

５．普及
・地区育成センターでは普及的観点を持っても良い

6．2019年度からの発掘

（ナショナル育成センター・アンダーカテゴリー代表との連携）

①　2019年度からの発掘方法

1．2019年度からの選手発掘方法論

・U13/U18ブロックDCは実施しないため、選手発掘方法論が変更となる
・都道府県におけるナショナルに推薦できる選手の発掘をシビアに実施する必要がある
・ブロックにおける発掘責任者と合議による会議体によりナショナルトライアウト・代表候補合宿への選手推薦を実施する

2．会議体準備

【U15世代】

→　U15ナショナル育成キャンプトライアウトへの推薦者協議
　　ジュニアオールスター（U15選手権）・全中時にブロックユース育成コーチにて協議しトライアウト受験者を決定

→　U14/U13ナショナル育成キャンプトライアウトへの推薦者協議
　　ブロックで都道府県ユース育成コーチにより協議
　　ブロックユース育成コーチにて協議しトライアウト受験者を決定

【U18世代】

→　インターハイ・ウインターカップ時に協議

→　男子は9～10月、女子は2月にエントリーキャンプ参加者を決定
　　ブロックで都道府県ユース育成コーチにて協議

① 2019年度からの発掘方法

月	U12	U13	U14	U15
2019/1		ブロックDC 都道府県4名 （ブロック総数による） 計188名		
2				
3	育成センター伝達講習会			
		ジュニアオールスターU13/U14選手予備選考		
4				
5				
6				
7				
8		U13トライアウト 選手予備選考	U14トライアウト 選手予備選考	U15トライアウト 選手選考
9	U12ブロックDC（9カ所） 都道府県4名 計188名 育成センター伝達講習会			トライアウト60名
10				NDC①30名 NDC②20名 NDC③15名
11				
12		ブロック別コーチ会議　U13/U14選手選考		
2020/1		トライアウト60名	トライアウト60名	
2		NDC①30名	NDC①30名 NDC②20名	
3			NDC③15名 育成センター伝達講習会（予定）	
		U15プレ選手権		
4				
5				
6				
7				
8		U13トライアウト 選手予備選考	U14トライアウト 選手予備選考	U15トライアウト 選手選考
9	U12ブロックDC（9カ所） 都道府県4名 計188名 育成センター伝達講習会			U16代表エントリー合宿
10				
11		ブロック別コーチ会議　U13/U14選手選考		
12		U15選手権		
		U13トライアウト 選手選考	U14トライアウト 選手選考	
2021/1		トライアウト60名	トライアウト60名	
2		NDC①30名	NDC①30名 NDC②20名	
3			NDC③15名 育成センター伝達講習会（予定）	

月	U16	U17	U18
2019/1	ブロックDC 都道府県4名（ブロック総数による） 計188名		
2	エントリー合宿選手選考		
3	U18代表エントリー合宿（女子） 育成センター伝達講習会		
4	男子U18代表合宿		
5			
6			
7	男子U16アジア（予定）		
8		日韓中	
9			
10	U16国体 女子U16アジア（予定）		
11	U18代表合宿（男子） 育成センター伝達講習会（予定）		
12			
2020/1			
2	エントリー合宿選手選考（女子）		
3	U18代表エントリー合宿（女子） 育成センター伝達講習会（予定）		
4			
5			
6			
7			U18アジア（予定）
8		日韓中	
9			
10	U16国体		
11	U18代表合宿（男子） 育成センター伝達講習会（予定）		
12			
2021/1			
2	エントリー合宿選手選考（女子）		
3	U18代表エントリー合宿（女子） 育成センター伝達講習会（予定）		

ブロック別ユース育成コーチ会議　U13/U14選手選考　年1回（11～12月）
ブロックユース育成コーチ会議　トライアウト受験者　年2回（8月、12月）

② 育成センターの機能・発掘の流れ

育成センター機能

発掘

・早熟と晩熟、技術と経験年数、将来予測身長，運動能力、運動学習能力を考慮。
・都道府県からナショナルトライアウトに推薦できる選手を見つける（責任者は都道府県ユースコーチ及びユースダイレクター）。
・県からの推薦を受けてユースダイレクター（仮称）によるチェックがあり、最終選考会議へ推薦。
・ナショナルトライアウトは原則60名以内で実施する。

育成

・「選手を作る」
・LTAD育成方針に沿い、4つのフェーズのどこに位置するか考慮
・各年代毎の特徴を考慮
・強化モデル、一貫指導を考慮
・育成センター指導内容を参考に
・育成コーチングの実践
・習熟度別指導を実践

指導者教育

・LTADの理解を深める。
・バスケットボール構造、練習計画をより深く学ぶ。
・指導実践を通じて育成コーチング(HOW)、習熟度別指導内容(WHAT)を検討する機会
・関わる指導者全体で何が最善かを検討する機会
・育成年代のフィロソフィ、トレーニング、コーチングスキル、保護者対応などを学ぶ。

普及

・できる限り県・地区・市町村レベルに浸透させる。
・選考されることでのステイタス。
・保護者教育

U13/U14/U15における選手発掘の流れ（2019以降）

県からの推薦 → ＊1 ユースダイレクターチェック → 最終選考会議 → トライアウト実施（60名以内） → NDC（30名以内）

NDCにはこの道の他、強化コーチの推薦による道もある。

＊1　ユースダイレクターは新規設置を検討中。
役割は都道府県にとどまらず指定されたエリアの選手の発掘、指導内容の伝達、組織整備のチェック等。
発掘において選手選考方針の下、都道府県・ブロック格差を調整する。
2018年度はブロックユース育成コーチがブロック内選考責任者。

③-1　育成センター事業 → 代表活動（2018：FIBA U18Asia U17World）

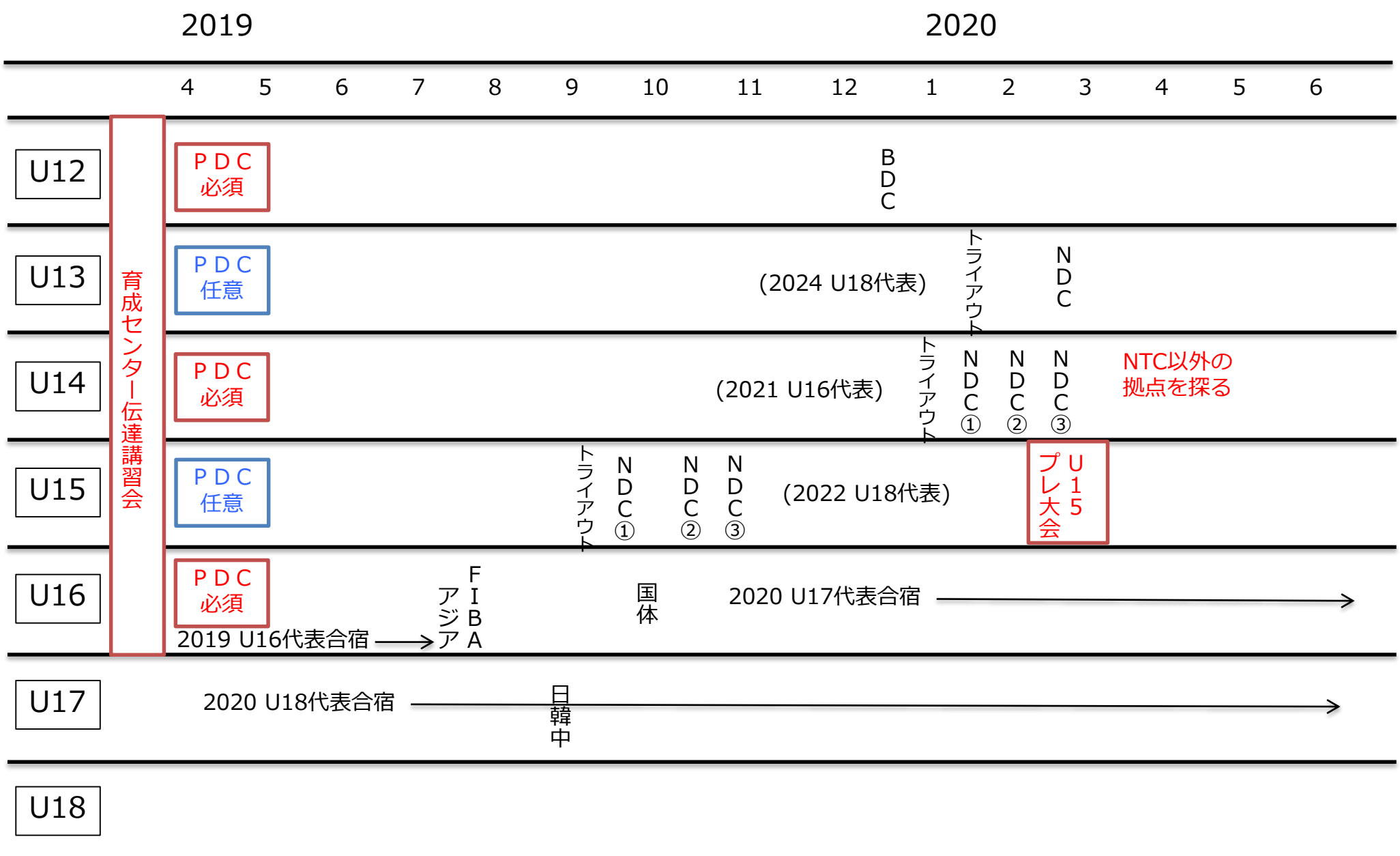
2018　　2019

4　5　6　7　8　9　10　11　12　1　2　3　4　5　6

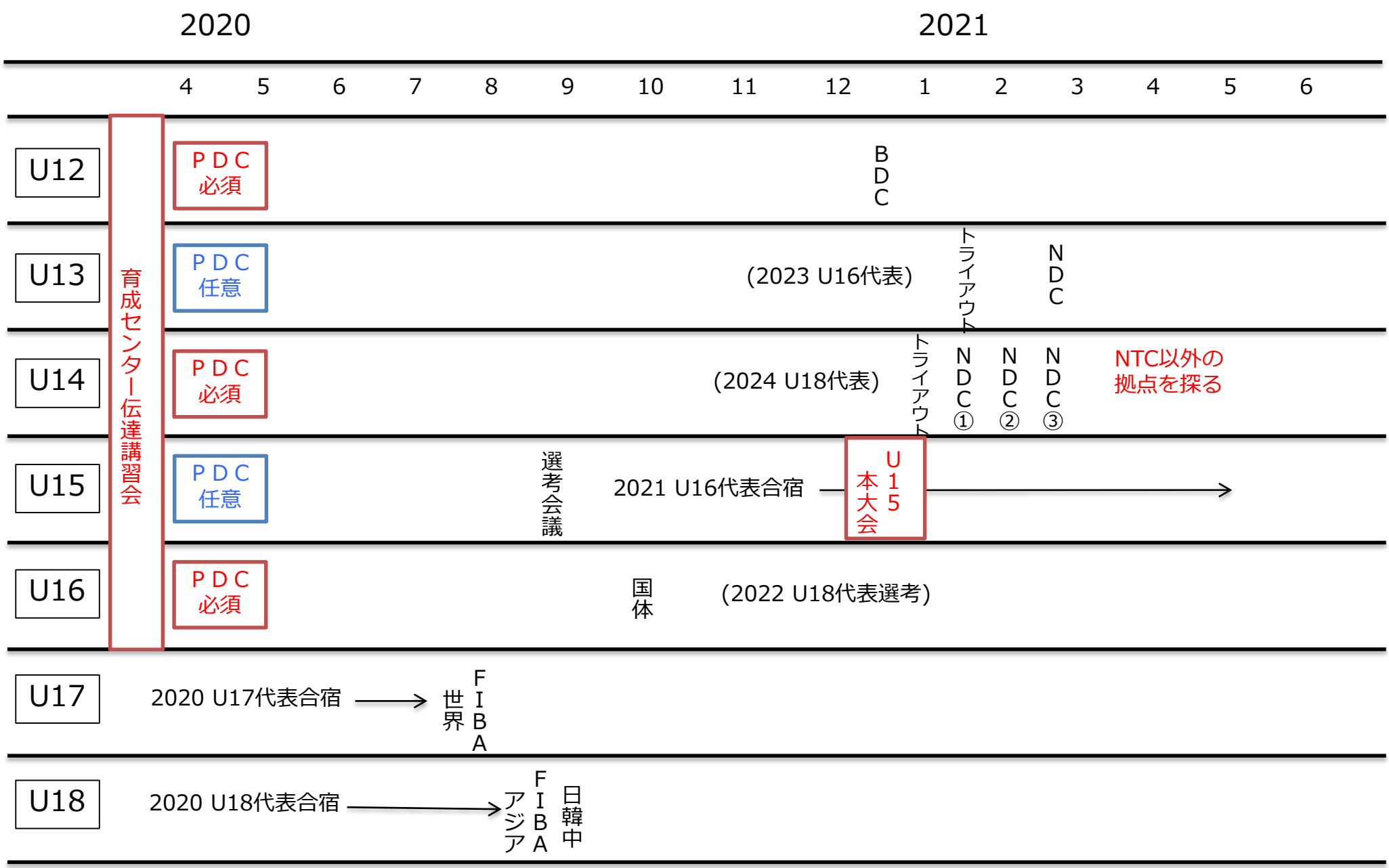
育成センター伝達講習会

U12	PDC 任意 BDC BDC BDC BDC BDC BDC
U13	トライアウト NDC BDC (2021 U16代表)
U14	PDC 任意 トライアウト NDC① NDC② NDC③ (2022 U18代表) ジュニアオールスター
U15	選考会議 2019 U16代表合宿 →
U16	PDC 任意 BDC 2020 U18代表選考
U17	FIBA 世界女子 BDC 2020 U18代表選考
U18	FIBA アジア男 日韓中 FIBA アジア女 2019 U19代表合宿 →

③-2 育成センター事業 → 代表活動（2019：FIBA U16Asia U19World）



③-3　育成センター事業 → 代表活動（2020：FIBA U18Asia U17World）



６．ブロック協会との連携

組織について①：ブロック協会の組織

2017年5月　専務理事連絡会資料より

JBA JAPAN BASKETBALL ASSOCIATION

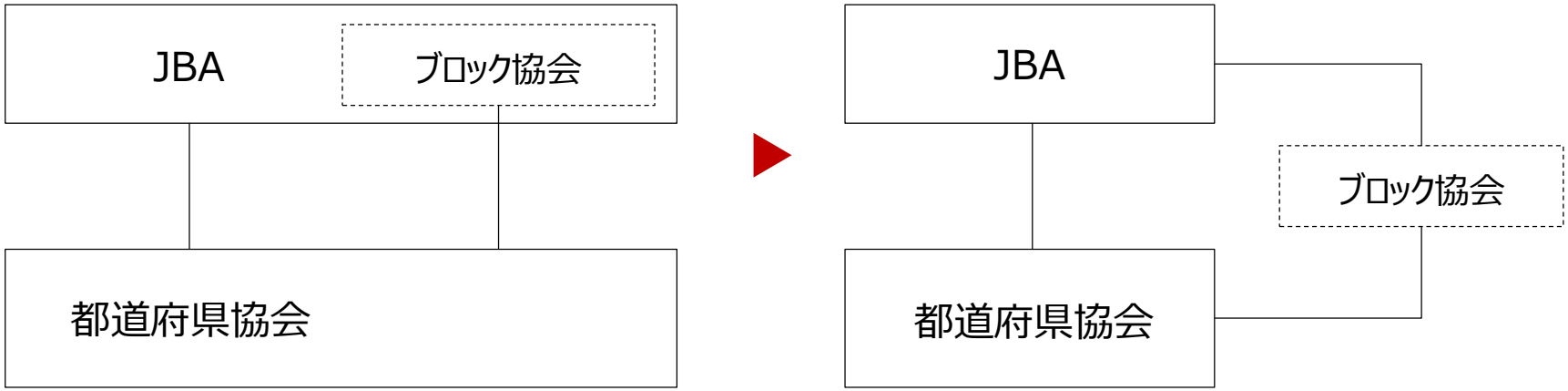
ブロック協会の役割と位置付け

【ブロック協会の役割】

●ブロック単位事業の調整の場（実施は開催地都道府県協会）

●ブロック内における共有問題についての協議の場

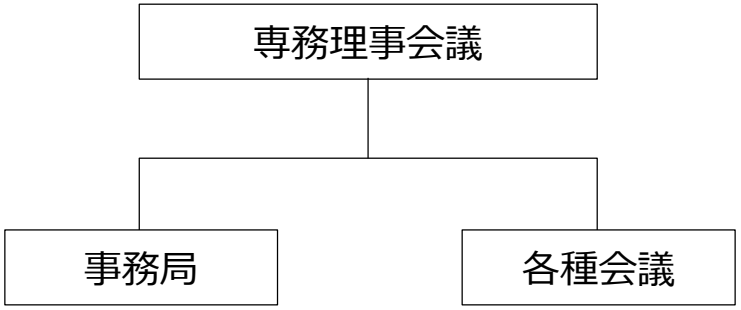
【ブロック協会の位置付け】



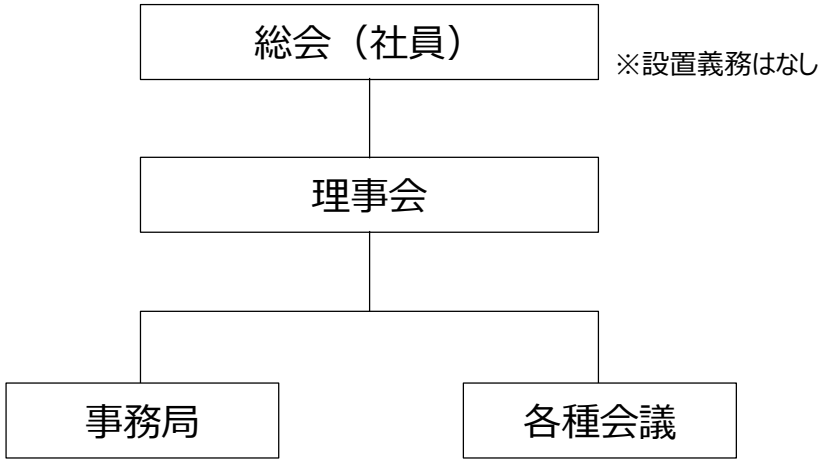
2015/11に提示した組織図

ブロック協会の組織構成

A：簡易パターン



B：社団法人パターン ※法人化義務はなし



【各機関のあり方】

- 総会（社員） はエリア内の都道府県協会をもって構成する
- 専務理事会議 理事会 はエリア内の都道府県協会専務理事をもって構成する

※役職の決定については、各ブロックの裁量による

- 事務局 のあり方（所在地、幹事協会決定方法等）については、決議機関（専務理事会議 または 理事会）において定める

その他ブロック協会運営上の留意点

【その他ブロック協会運営上の留意点】

●ブロック協会はエリア内都道府県協会の集合体であり、都道府県協会の上部団体ではない。

●ブロック協会は登録料を徴収することはできない。

・エリア内都道府県協会から登録料の一部を拠出させることも不可とする。

・エリア内都道府県協会から必要以上の分担金を徴収してはならない。

●ブロック協会はD-fundの交付対象としない。

・ブロック規模事業への交付金は、開催地都道府県協会に対して交付する。

●ブロック協会は、毎年度「事業計画」「予算計画」を定め、毎年度終了後に「事業報告」「決算報告」を作成するものとする。

【組織の移行について】

●2018年度から2年間の移行期間をもって、現行ブロック協会の組織を前述の方針に基づいた組織に移行する。

●法人化済みブロック協会については、当該法人を継続することで問題ないが、JBAの方針に基づいて規約規程類を改定する。

※JBAからのブロック振興費については、今後見直しを行う。

7. 連絡事項

連絡事項

1．2019年3月10日（日）育成センター伝達講習会@NTC　12：00-17：00

・育成センターにおけるタレント発掘の視点、タレント育成、指導内容の考え方，クイックネスおよびジャンプトレーニングの実際例の紹介（予定）
・ドイツからDr. Antje Hoffmann 氏を招聘、トースティンロイブル氏と共に講習を行う（ドイツ協会との提携による）
・都道府県における育成責任者、発掘を担当する方、講習の後都道府県内にて講習内容を伝達できる方にお越し頂きたい。（都道府県ユース育成担当者には連絡済み）

2．コーチ向け指導者講習会（U13/U18ブロックDCにて実施）

・育成センターの目的
・ユース育成担当者の役割
・育成センターでの指導内容
・育成センターでのコーチング
・タレントスカウティング
・2019年度からの発掘方法論変更
・連絡事項（3月育成センター伝達講習会，指導者講習会）
・各県からの要望事項等